

報告書抄録

ふりがな	きょうとふいせきちようさほうこくしゅう
書名	京都府遺跡調査報告集
副書名	
巻次	第169冊
シリーズ名	京都府遺跡調査報告集
シリーズ番号	第169冊
編著者名	増田孝彦・福山博章・黒坪一樹・伊賀高弘・松井忍
編集機関	公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
所在地	〒617-0002 京都府向日市寺戸町南垣内40番03 Tel. 075(933) 3877
発行年月日	西暦2017年3月28日

ふりがな	ふりがな	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡名	所在地	市町村	遺跡番号	° ' "	° ' "		m ²	
へいあんきょうあと・ひがしほんがんにこぼぐん 平安京跡・東本願寺前古墓群	きょうとふきょうとししもぎょうくからすまどおりしちじょうさがるひがしおこうじちよう 京都府京都市下京区烏丸通七条下る東塩小路町702番他	26106	719	34° 59' 19"	135° 45' 32"	20140521 ～ 20150116	1,900	建物建設

備考：北緯・東経の値は世界測地系に基づく。

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
平安京跡・東本願寺前古墓群	墓・生産遺跡	鎌倉～	土坑・土壙墓・井戸・溝・柱穴	土師器・須恵器・瓦器・輸入陶磁器・銭貨・石製品・鉄製品・銅製品	

所収遺跡名	要 約
平安京跡・東本願寺前古墓群	<p>13世紀から15世紀初頭にかけての柱跡、土坑、溝、井戸を多数検出した。土器などの遺物とともに鉄釘の製品・未製品、鉄滓、炉壁、銅滓などの鍛冶・精錬関連の遺物が多数出土し、職人町である七条町の関連の遺構と判断された。調査地全域で230基以上の多数の土坑を検出したため、掘立柱建物は2棟しか復原できなかったが、鉄釘・鉄滓・炉壁・銅滓の分布から、1棟は工房、1棟は工房以外の建物と判断した。また、100基以上の土坑には土師器皿を大量に埋納していた。従来、こういった土師器集積土坑は東本願寺前古墓群の主体となる墓と考えられてきたが、墓である確証は得られなかった。土坑を分類し、大型で長方形の平面形を呈するものと大型の甕を埋納するものを墓と考え、これらは屋敷の背後に設けられたものと考えた。小型の土師器集積土坑は、全期間を通じて雑多な建物と重複して造られていることから、共同墓地を形成した墓穴とは考えにくく、完形の土師器皿が据え置かれた状況で出土することから、何らかの祭祀に関わる遺構と判断した。</p>